

3. 5 男女共同参画小委員会

1) 活動目標

2007, 2008 年度においては以下のような活動目標のもと, 広報・企画・調査の3つのWGを発足させて、活動の活性化を図った。

2007 年度: 女性技術者のビジョンづくり

2008 年度: これまでの蓄積を生かして、小委員会の外へ情報を発信し、男女共同参画についての学会員の理解を深めよう!!

具体的な活動の目標は以下の通りである。

- (1) ウェブサイトの開設と内容の充実
- (2) 土木学会全国大会における研究討論会の開催
- (3) 「男女共同参画に関わる土木学会法人会員アンケート (第1回)」の実施
- (4) 学会内組織への働きかけ
- (5) 男女共同参画学協会連絡会等との連携活動

2) 活動成果

- (1) ウェブサイトの開設と内容の充実

男女共同参画小委員会の Web サイトを開設し、後述する各活動の報告、法人会員アンケート調査の報告書、本委員会の活動報告書等を掲載した。

- (2) 土木学会全国大会における研究討論会の開催

2007, 2008 年度とも研究討論会を開催した。会場は定員 100 名程度を予定して準備していたが、他の研究討論会と並行して開催されていたこともあり、参加者は 30 名前後であった。しかし、学会誌のニュース欄への投稿や土木系業界新聞への掲載などにより、学会員への広報・啓発の効果を上げることができた。

2007 年度「考えよう！土木技術者のワークライフバランス」

3 氏による話題提供；①「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)」矢島洋子 (三菱UFJ リサーチ&コンサルティング (株))、②「育休親父の思うところ—遠慮するなよ、その気があれば育児休業はとれる—」畠中真一 (川田工業株式会社)、③「土木技術者からみた現状と課題に関して」堀越研一 (大成建設 (株))、その後、「土木の現状と問題点」および「土木で進めるワーク・ライフ・バランス」という観点から討論が行われた。

パネリストや参加者から、土木技術者のワーク・ライフ・バランスを推進するうえで課題として、以下のような意見が出された。

- ・仕事と家事・育児等の生活時間をバランスさせたいと多くの人考えているが、現実にはそうっていない。
- ・個人や企業等組織のそれぞれの視点から取り組みが必要である。
- ・「女性が職場で活躍できる環境・意識を実現することと同様に、男性が家庭で活躍できる環境・意識を実現する」というような発想を転換した取り組みがよい。
- ・誰もが公平に競争できる土俵を作る。
- ・産官学一体となって取り組むことが出来る土木学会の役割が重要である。

2008 年度「ダイバーシティ・マネジメントを土木業界からはじめよう！」

雨宮弘子氏 (東京電力 (株) ダイバーシティ推進室) による基調講演「いまなぜダイバーシティ推進が必要なのか～東京電力の事例から～」と米山賢 (男女共同参画小委員会幹事、(株)建設技術研究所) による土木学会法人アンケート調査の結果報告の後、雨宮氏と栢原英郎土木学会会長をパネリストとして、土木学会におけるダイバーシティ・マネジメントの必要性、可能性について議論が行われた。

土木業界のダイバーシティ推進におけるキーワードとして、「技術力」「チャンスを対等に」「上司の意識改革」等が挙げられた。

(3) 「男女共同参画に関わる土木学会法人会員アンケート（第1回）」の実施

2007年度に、土木界における男女共同参画の状況と課題を把握し、土木学会が今後の対応を検討する際の基礎情報とすることを目的として、「男女共同参画に関わる土木学会法人会員アンケート（第1回）」を実施した。

その結果、土木系の女性技術職員の割合は他の技術系に比べて低いこと、女性技術職員の採用は雇用機会均等法の施行を契機として増えていること、女性技術職員採用にあったっては「ロールモデルの不在」が課題であること、などが明らかになった。

(4) 学会内組織への働きかけ

女性会員数の増加、組織運営・企画戦力等に関連した部門における女性比率の増加、および男女ともに仕事を継続できる環境づくりのための活動を学会内組織に働きかけた。

具体的には、会員構成の多様性の状況に関する土木学会員の認識を高めるために、会員データ公表の際に女性比率や年齢別構成を示すこと、学会運営に女性の視点を取り入れるために、本部および支部の役員選出において女性の選出の検討すること、育児中の会員が参加しやすいように2008年度に実施した全国大会における一時保育を今後も継続するとともに、支部大会へも拡大すること、などを担当部局に申し入れた。

(5) 男女共同参画学協会連絡会等との連携活動

土木学会は、理工系の学協会で組織されている男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟しており、同協会連絡会主催の「女子高校生夏の学校」および「女子高校生ジュニア科学塾」の実施協力、「第2回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」への協力、男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加を行った。

女子高校生夏の学校では、女性土木技術者による講演、実験教室、および土木工学に関するポスター展示を行い、女子高校生をはじめとする多くの方々の土木工学に対する理解を深めることができた。また、男女共同参画学協会連絡会シンポジウムでは、他学協会における男女共同参画の状況を把握した。2007年には土木学会の活動状況を報告したポスター展示でビジュアル賞を受賞することができ、学会外へ土木学会の状況を知らせるよい機会となった。

また、同様の取り組みを行っている地盤工学会、土木技術者女性の会との連携を進めることを確認した。



2007年 男女共同参画学協会連絡会シンポジウムビジュアル賞受賞ポスター

(6) その他

①2008年度 第63回土木学会全国大会で一時保育サービスを提供

全国大会委員会および東北支部の協力により、土木学会として初めての一時保育サービスを提供した。東北大学川内けやき保育園に受け入れを依頼し、利用料金は、7割を学会からの補助、3割を保育依頼者の負担という形で実施した。

②男女共同参画小委員会第一期活動報告書の作成

男女共同参画小委員会としての第一期（2006年度・2007年度）の活動報告書を作成し、ウェブサイトに掲載した。

3) 今後、活動を要する事項

2007年度は「女性技術者のビジョンづくり」を目標に活動してきたが、研究討論会や法人会員アンケート調査などの活動により、男女共同参画は女性だけを対象とするのではなく男性も含めた取り組みが重要であることが明らかとなった。そのため、本委員会の活動は性別を超えたダイバーシティの推進へと方向を修正しつつある。今後はダイバーシティ推進の観点から、学会内外への啓発活動や男女ともに仕事を継続できる環境づくりに向けた調査・広報を行っていく必要がある。

しかし、2008年3月時点の土木学会会員における女性比率は正会員2.1%、学生会員11.9%という状況であり、女性比率の引き上げが最重要課題といえる。さらに積極的な取り組み促進のためには、女性比率の目標値を設定し、数値目標実現のための具体的な方策について検討していく必要がある。また、法人会員アンケート調査で明らかとなった課題「ロールモデルの不在」についても優先して取り組む必要がある。

参考資料

(1) 講演概要集、学会誌等での活動報告

- ①岡村美好, 小松登志子: 女子中高生理系選択支援事業と男女共同参画小委員会の活動について, 土木学会第62回年次学術講演会講演概要集, CS01-005, 2007年9月
- ②松本香澄, 岡村美好, 山田菊子: ワーク・ライフ・バランスを土木業界で実践するために～男女共同参画小委員会の活動について～, 土木学会第63回年次学術講演会講演概要集, CS01-20, 2008年9月
- ③米山賢, 山田菊子, 桑野玲子: 土木学会法人会員の男女共同参画への取り組みに関する実態調査(速報), 土木学会第63回年次学術講演会講演概要集, CS01-21, 2008年9月
- ④岡村美好: 土木学会における多様性推進の方策, 土木学会教育論文集, Vol.1, pp.33-39, 2009年3月
- ⑤岡村美好: 第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム開催 ポスターセッションで土木学会がビジュアル賞を受賞, 土木学会誌, Vol.92, No.12, p.71, 2007年12月
- ⑥岡村美好: 女子高校生夏の学校開催 講演, 実験, ポスター, キャリア相談で土木をPR, 土木学会誌, Vol.92, No.12, p.71, 2007年12月
- ⑦岡村美好: 全国大会にて初の保育サービスを提供, 土木学会誌, Vol.93, No.12, p.71, 2008年12月
- ⑧松本香澄: 栢原会長を迎えた研究討論会「ダイバーシティ・マネジメントを土木業界からはじめよう!」を開催, 土木学会誌, Vol.93, No.12, pp.71-72, 2008年12月

(2) 土木系業界新聞への掲載

当小委員会の活動及び2008年度の土木学会全国大会における研究討論会の様子が、日刊建設工業新聞において報じられた。(2008年8月20日, 9月25日)

男女共同参画 取り組み強化

土木学会 相原英樹会長は、土木分野における男女共同参画の促進に向けた取り組みを強化する。女性を多めて有能な人材が木匠に育ち、生涯を通じて仕事を続け、多様な活躍を遂げるため、同学会が主導で取り組みを推進する。教育企画、人材育成委員会の男女共同参画小委員会小委員

土木学会

長岡村美野製大助が中心となり、倉に行つたアンケート調査を基に提言する。9月に仙台市で開催する同会の大会では、相原会長が「研究討議」を行う。女性だけでなく、男性や外国人を含む多様な人材に活躍の場を「ダイバーシティ・マネジメント」を推進する。

ダイバーシティ・マネジ実践 外国人など多様な人材活用も目指す

アンケート調査は、女性司がいらない、おはよう着てが一段み求めてく、優秀な人材が育たない、配属から職場に復帰、人材確保に土木分野に落ちる。土木学会は、女性を多めて有能な人材が木匠に育ち、生涯を通じて仕事を続け、多様な活躍を遂げるため、同学会が主導で取り組みを推進する。教育企画、人材育成委員会の男女共同参画小委員会小委員

9月の大会で 相原会長交え研究討議

性差を2.8倍にするなど、性別による格差が顕著な土木分野。大の川内北北キャンパスに建設を推進する。相原会長は、女性を多めて有能な人材が木匠に育ち、生涯を通じて仕事を続け、多様な活躍を遂げるため、同学会が主導で取り組みを推進する。教育企画、人材育成委員会の男女共同参画小委員会小委員

2008年8月20日

建設工業 (120.9.25)

大会

土木学会

「ダイバーシティ・マネジメントを土木業界からはじめよう」

大会

土木学会

技術力や多様性認め 男女共同参画実現へ

土木の仕事は多岐にあり、女性の活躍の可能性は大きい。土木学会 相原英樹会長の教育企画・人材育成委員男女共同参画小委員会に「ダイバーシティ・マネジメント」を推進する。相原会長は、女性を多めて有能な人材が木匠に育ち、生涯を通じて仕事を続け、多様な活躍を遂げるため、同学会が主導で取り組みを推進する。教育企画、人材育成委員会の男女共同参画小委員会小委員

「ダイバーシティ・マネジメント」を推進する。相原会長は、女性を多めて有能な人材が木匠に育ち、生涯を通じて仕事を続け、多様な活躍を遂げるため、同学会が主導で取り組みを推進する。教育企画、人材育成委員会の男女共同参画小委員会小委員

2008年9月25日